

祇園祭とクーラー

ながれ

遠藤 瑞季 (えんどう みずき / 2023 年度インターン生)

現在、CSO ラーニング制度のインターン生としてお世話になっております、遠藤瑞季と申します。東京大学大学院公共政策学教育部に所属しており、大学院では、経済と政治の面から再生可能エネルギーについて学んでいます。環境文明 21 の活動に興味を持った理由は、脱炭素社会の実現といった目標に対して、これまでは、経済や政治といった社会の仕組みをどのように構築していくかという点に着目してきました。しかし、環境文明 21 の設立理念である「人々の価値観を変える」という文言を目にし、真の意味での環境問題の解決には、価値観といった根源的課題にアプローチすることも大切だと感じたからです。大学院進学を機に今年の4月から上京し、研究と就職活動、そしてインターンと日々忙しく充実した生活を送っています。今回は祇園祭とクーラーについて書こうと思います。

私の出身は京都府木津川市です。先日、帰省した際に大学時代の先輩と祇園祭前祭（さきまつり）山鉦巡行（やまぼこじゅんこう）に行っていました。山鉦巡行は祇園祭のハイライトとも言われており、長刀鉦を先頭に 23 基の山鉦が都大路を巡行します。山鉦が街中を巡行することで厄を集めるとされているので、集めた厄を留めないよう巡行が終わると山鉦は直ぐに解体されるそうです。京都に 20 年以上住んでいましたが、これまで一度も祇園祭に行ったことがありませんでした。しかし今回は、山鉦巡行の連綿と続いてきた歴史を迫力と共に実際に目にすることで、伝統文化の偉大さと良さ、そして後世に伝える大切さを実感しました。写真は、その日はとても暑かったので鴨川で川遊びをして

きた時の様子です。

一方、今、この文章をクーラーの効いた自室で書いています。扇風機も買ったのですが、どうしても耐え切れずクーラーに頼る日々が続いています。電力需要がひっ迫していること、省エネを行うべきことは分かっていること、暑さに人間は無力だということをひしひしと感じています。便利な暮らしを維持しつつ環境問題の解決に取り組むためにはどうすればいいのかと考える日々です。

インターンシップが始まって2か月が経ちました。毎回、「なぜ現行の政策が不十分 / 不適當か」、「中小企業が脱炭素に取り組むうえで何が障壁か」、「環境問題の解決は誰のためなのか」といったこれまで自分が持っていなかった視点や考え方を知ることができ、楽しみながら沢山のことを学んでいます。このような学びをより多くの人に得てもらいたく、現在行っているセミナーや意見交換会への若者の参加を促進するためにはどのような取組が効果的かを検討している最中です。今後の活動も励んで参りますので、どうぞよろしくお願ひします。

